



中橋 友子 議員
(日本共産党
幕別町議員団)

問 「ごみは燃やさない・埋めない」限りある資源の再利用化推進を
答 十勝全体でさらなる生ごみの減量化に向けての検討を促したい

問 「ごみ処理施設「くりりんセンター」の老朽化に伴い、平成38年度をめどに総事業費約250億円規模の新炉建設計画の検討が開始され、ごみ処理の方法・財政負担のあり方が課題となっている。ヨーロッパでは既に「ごみを燃やさない方向が主流であり、国内でも焼却せず再利用する自治体

が生まれている。富良野市は焼却施設を持たず、長期の研究と努力を重ね、一般廃棄物の約90%が再利用されている。「幕別町第2期「ごみ処理計画」では、廃棄物の抑制、再利用、再生利用に取り組み、循環型の社会構築を目指しているものの、資源リサイクル率の目標は、平成36年で38%に過ぎない。以下、次の点を伺う。

(1)ごみの資源化と減量化の促進のために。
①可燃ごみの種目別細分別と、生ごみの堆肥化の研究は。②大型廃棄物の再利用は。③町民への協力の呼び掛け、過剰包装を減らすために、事業所への協力の呼び掛け

は。④町民を交えた検討委員会の立ち上げは。
(2)焼却施設改築計画の町負担額の軽減に向け、他市町村とともに資源化率を高め、新焼却施設の規模縮小の検討を。

町長 (1)①幕別地域の可燃ごみは、十勝圏複合事務組合の「くりりんセンター」に搬入し、細分別をせずに焼却処理を行っている。生ごみの減量化や堆肥化推進のため、生ごみ処理容器や電動生ごみ処理機の購入経費の一部助成を行う事業に取り組んできたが、一定の効果と普及が図られ、平成23年度をもって終了した。今後は、低コストのダンボールコンポストによる堆肥化の推奨や、食品ロスの防止による生ごみ減量化を啓蒙するとともに、管内市町村の環境担当課長会議において、十勝全体でさらなる生ごみの減量化に向けての検討を促したい。②リサイクル市など「不用とする方」と「必要とする方」の架け橋となるような

事例の研究を進めたい。③町民へは、各種出前講座の終了後、資源ごみの分別方法や分別後の行方の周知、リデュース、リユース、リサイクルの3Rの啓蒙と協力について呼び掛けている。事業所については、商工会を通じて、簡易包装の推奨についての協力を呼び掛けるほか、消費者である町民一人ひとりの簡易包装への意識の高揚に向けて、今後も啓発に努める。
④一般廃棄物の資源化や減量化推進の方策等を審議するため、幕別町廃棄物減量等審議会を設置し、13人の町民の方に参画いただいている。

(2)ごみ処理を安全に、安定して継続的に行うため、平成39年度中に新しい施設での供用開始を目指しており、施設の整備に向けて、管内19市町村による「新中間処理施設整備検討会議」で協議を重ねている。これらの検討には高度な専門性が必要となり、道内大学や全国都市清掃会議等の学識経験者で構成する「有識者会議」からの助

言、提言をいただき、最終的なごみ処理方式の選定を行う。31年度末までには「新中間処理施設整備基本構想」を策定する予定だが、ごみの処理方式と施設規模により事業費が大きく左右されることから、総予算や本町の負担額については、現時点で示されていない。協議の中では、「可能な限り資源化を図り、それでもなお処理できない可燃ごみは、焼却処理にてエネルギー回収を図る」ことを、管内19市町村の共通認識として議論を進めており、施設の規模についても、構成市町村の人口推計を基に最小限の施設規模となるよう検討を行っている。



新炉建設計画が検討されている
くりりんセンター